

令和元年度

公立大学法人 業務実績評価書

令和2年8月

福岡県公立大学法人評価委員会

# 目 次

<b>年度評価の考え方</b>	-----	1 ページ
<b>各法人の評価</b>		
<b>1 公立大学法人九州歯科大学</b>		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
<b>2 公立大学法人福岡女子大学</b>		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
<b>3 公立大学法人福岡県立大学</b>		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

# 年度評価の考え方

## 1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

## 2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。



# 公立大学法人九州歯科大学

## I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和元年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育や、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等との連携を強化し、包括的な地域歯科保健医療体制の構築を推進している。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和元年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を一層推進するとともに、内部質保証体制の充実による業務改善に取り組み、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成
  - ・アウトカム基盤型教育を見据えて、歯科医療人としての意識の醸成やチーム医療の観点から学生アンケートを実施し、シラバスの改訂を図るなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
  - ・モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、授業科目の充実や総合医科病院での臨地実習の展開など、医科歯科連携教育を加速させる環境を整備している。
  - ・臨床実習前に必要な能力を評価するステューデント・デンティスト認定制度のトライアルの実施体制を整備するとともに、デジタル歯科シミュレータを活用した臨床技能評価に向けた検証を行っている。
  - ・組織的な教育改善に取り組み、令和元年度の歯科医師国家試験合格率（対出願者数）が全国29大学中3位と高水準であったことや、歯科衛生士国家試験合格率が100%であったことを評価する。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
  - ・自ら課題を解決することができる歯科医療人を育成するため、地域の実情や学生のニーズを見据えて、3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の見直しに取り組んでいる。
- (3) 教職員の教育力向上
  - ・図書館にラーニング・コモンズを開設するとともに、学生が主体的に学ぶための教育方法の検討を行うなど、教育活動の改善に努めている。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義等の高大連携やオープンキャンパス、高校訪問、施設見学会等の入試広報活動の実施など、優れた資質や高い意欲を持った人材の確保に取り組んでいる。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・教職員が連携して学生相談等に対応するための体制を確保するとともに、保護者面談会を充実させるなど、きめ細かな学生支援を行っている。

(6) キャリア支援

- ・口腔保健学科において、希望職場への就職活動を支援する体制を充実させるとともに、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、引き続き就職率100%を達成した。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院との医科歯科連携協定等を活かして、地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携や多職種連携を目指した歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開している。
- ・科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。
- ・歯周病検査を簡便かつ迅速に行うための研究を推進するとともに、地域の健診機関と包括的連携協定を締結し、地域医療調査研究センターの立ち上げ準備を行うなど、成人歯周病検診を幅広く展開するための体制整備を進め、寄附講座の設置に繋げた。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」において、市内3大学が連携し、単位互換による実践的教育を実施するとともに、附属病院を題材にユニバーサルデザインによる環境づくりに取り組むなど、高齢者のQOL支援を志向する人材の育成を推進した。
- ・地域の中核病院や社会福祉施設等との連携強化により、多職種連携を一層充実させ医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制の充実を加速化するとともに、「働く世代の歯周病検査普及事業」を実施した。
- ・学术交流協定に基づき、短期留学生の受入れや、海外学生短期派遣プログラムを正規の選択科目として実施するなど、海外大学との交流を推進している。
- ・「Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2019」を開催し、台湾及び東南アジアの歯学教育及び歯科保健活動に関する学术交流を展開するとともに、交流協定締結校から教員を受け入れ、地域包括歯科医療センターにおいて短期研修を実施した。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・I R室で学生の履修データを解析し、国家試験に向けて組織的に活用する体制を改善するとともに、学長裁量経費を確保するなど、戦略的な大学運営に努めている。



- ・ 附属病院の総合診療科の組織再編を行い、臨床教育を充実させるとともに、電子カルテシステムを活用し、包括歯科診療に関連する教育資料や口腔疾患の視覚素材のアーカイブ化を実施した。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・ E S C O事業の導入により光熱水費を低減させるなど、経費節減に取り組んでいる。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学内に内部質保証委員会を設置し、内部質保証に関連する各種規程等を整備するとともに、教育活動を中心とした自己点検・評価の組織的な対応に努めているが、今後の本格稼働に向けて、外部の意見を取り入れるなど、実効性のある組織運営に期待する。
- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。



## 公立大学法人福岡女子大学

### I 全体評価

公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和元年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡女子大学では、クォーター制の導入や、海外有力大学への学生派遣や外国人留学生の受入れ、国内外での体験学習の充実、教育の場としての寮活動の充実等、特色ある教育に積極的に取り組むとともに、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施している。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の令和元年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、令和5年の創立100周年に向けて、社会から高く評価される大学づくりに全力で取り組んでいる。

引き続き、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、実効性の高い取組を一層進められることを期待する。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、充実した教育を推進するための積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

#### (1) 学士課程

- ・クォーター制のメリットを踏まえ、授業の理解を深め、学びを定着させるための工夫を行うとともに、カリキュラム体系を点検するなど、教育の充実に力を入れている。
- ・学術英語プログラムについて、教員、学生間で事前に授業内容を共有し、学習意欲や成果の向上を目指すとともに、多彩な課外補習講座を実施するなどして、多くの学生の入学後のTOEFL成績の伸びに繋げている。
- ・学内委員会への学生の参加を増加させ、成長を発信する機会を設けるなど、リーダーシップ向上を図る取組を推進している。
- ・多くの優秀な留学生を受け入れ、国際性豊かな学習環境の充実に積極的に取り組むとともに、交換留学、語学研修、体験学習等の海外派遣学生数が目標を大きく上回ったことを評価する。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での寮活動について教職員が助言を行い、段階的に1年生を寮運営に参加させるなど、寮教育の充実に取り組んでいる。また、豊かな人間性を培う感性教育について、授業内容の充実に力を入れている。
- ・「国際文理学講究」のプログラム数を拡充するとともに、副専攻制度を周知し、副専攻認定者数が大幅に増加するなど、文理統合型教育を推進している。
- ・食・健康学科において、実験機器等を充実するなど、専門教育を向上させるとともに、管理栄養士国家試験の合格率が、外国人留学生を含めて2年連続で100%を達成したことを評価する。

#### (2) 大学院課程

- ・人間環境科学研究科の教育研究の充実に取り組み、平成29年度に開設した博士後期課程において、初めて4名の博士号取得者を輩出した。

(3) 教育活動の活性化

- ・ディプロマポリシーとの関係を明確にした、教員や学生に分かりやすい新福岡女子大学基礎力を策定するとともに、シラバス及び学修ポートフォリオに反映させるなど、教育内容の検証に取り組んでいる。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・高校を単位としたキャンパスビジットの開始や、オープンキャンパス、高校訪問等の入試広報活動に積極的に取り組むとともに、海外の交流協定高校の推薦枠を設け、4名の留学生が入学するなど、国内外の多様な学生の確保に力を入れている。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・専任教員による学生面談等の実施や、ラーニング・コモンズや共同研究室の利用状況を把握・検討するなど、主体的な学びを支援する取組を行うとともに、学生相談や健康管理へのサポートを教職協働で行っている。

(6) キャリア形成の支援

- ・体験学習プログラムを整理し、キャリア教育を充実させるとともに、企業訪問による就職先の開拓や、企業説明会、個別面談等を実施し、就職率が高水準を維持している。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みの下、国際的な研究者ネットワークを構築するとともに、共同研究を推進し、科学研究費の獲得に繋げた。また、産学官の研究交流件数、共同研究件数ともに目標を上回った。
- ・科学研究費補助金の申請件数、獲得件数ともに目標を上回るなど、外部研究資金の獲得を積極的に進めている。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・女性のキャリアアップ支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」を実施するとともに、新たに再就職支援のための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を開始し、雇用に繋がったことを評価する。
- ・出前講座やイングリッシュ・キャンプ等の小中高との教育連携の推進や、生涯学習カレッジの開講、地域コミュニティとの連携事業等に取り組むとともに、福岡女子大学美術館や図書館で企画展を開催するなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」による国際共同研究や国際教育プログラムを推進し、学生及び教員の交流活動が活性化するなど、教育研究の国際展開に力を入れている。
- ・欧州の大学との学生交流協定の締結等、海外大学との交流を充実させるとともに、留学説明会や留学経験者による相談会等、在校生の海外志向を高める取組を実施し、短期受入留学生数、海外派遣学生数ともに、目標を大きく上回っている。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・文理統合型教育の推進に向けて、学科の枠を越えて、新たなカリキュラムに柔軟かつ適切に対応できる教員組織の見直しに取り組んでいる。

- ・教員と事務職員が対等の立場で、大学の円滑な運営の実現や多様なニーズに対応するため、教職協働組織（センター）に改編した。また、センターの枠を越えたプロジェクトチームにより、広報戦略の策定や各種イベントを行っている。
- ・教職員の多様な視点によるユニークな提案を募集し、教育活動の活性化に取り組んだ。採択事業のうち「講義動画配信による授業外学習支援プロジェクト」については、令和2年度におけるオンラインによる遠隔授業導入に活かされた。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新たな教職協働組織を生かして、自己点検・評価体制を改善するとともに、学生意識調査を実施し、学習意欲の向上を目指した大学運営の改善策を検討している。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、広報誌の全面リニューアルやマスコミへのアピール等、積極的に広報を推進し、大学ブランドの浸透に力を入れている。





## 公立大学法人福岡県立大学

### I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和元年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善）について「順調に進んでいる」、1項目（自己点検・評価及び情報の提供）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、専門的職業人としての能力の育成はもとより、全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施している。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和元年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、大学の理念の実現を目指して、教育研究をはじめとした業務の充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

なお、自己点検・評価における組織的な取組を着実に実施することが望まれる。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
  - ・教養演習テキストの改訂を行い、新年度の授業計画を新シラバス様式に沿って作成するとともに、eラーニング教材を用いた語学教育を実施するなど、教養教育の充実に取り組んでいる。
  - ・人間社会学部において、令和元年度入学生が対象となる幼稚園教諭一種、保育士資格及び教職課程に係る新カリキュラム、公認心理師養成に係るカリキュラムを実施するとともに、福祉社会で役立つ総合的な能力を身に付けるための総合人間社会コースにおいて、4年次カリキュラムまで完成させた。
  - ・看護学部において、モデル・コア・カリキュラムを踏まえた科目内容の点検を行い、新たに5科目を追加するとともに、「ケアリング・アイランド大学コンソーシアム」の構成大学と共同でオンラインを取り入れた反転授業を実施した。
  - ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
  - ・人間社会学研究科の心理臨床専攻における公認心理師及び臨床心理士の養成に係る実習評価票の見直しや、社会福祉専攻における科目区分の統合など、大学院教育の充実を図っている。
- (3) 教育活動の活性化
  - ・教員を対象としたセミナーの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施に向けて、シラバスの様式を改訂するなど、教育活動の活性化に努めている。
- (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保
  - ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、高校訪問等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率が目標を上回った。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・図書館分館ラーニング・コモンズの使い方や活用事例を学生及び教員に周知するとともに、情報ネットワーク環境を充実させ、図書館の利用やeラーニングによる学修が促進されている。
- ・経済的理由により修学が困難な学生を支援するため、寄附金を活用した特別奨学金制度を新設した。

(6) キャリア支援

- ・系統的キャリア形成支援講座やインターンシップ・プログラム等を充実させるとともに、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が初めて100%となった。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体等と連携協定を締結し、共同研究の基盤を構築した。また、研究機能を強化するため、研究所組織の見直しを行っている。
- ・外部研究資金獲得に努め、科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っている。

## 3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター等において、資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数が4,000件、キャンパススクール利用児童・生徒数が2,000人を超えたことや、サポーター派遣人数が過去最高となるなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行うとともに、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業において、県内の教育支援センター等のネットワーク化と支援力向上に資する取組を実施した。また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が前年を大きく上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援しており、これらの地域社会の課題への取組を高く評価する。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流の推進に努めるとともに、留学生（派遣・受入）数が目標を上回っている。

#### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
 評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域貢献活動の拡大に向けて、看護実践教育センターに特定行為研修部門を新設し、看護師を対象とした特定行為研修を令和3年度から開講するための体制整備を行った。
- ・インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料収納事務のアウトソーシングを行い、事務の大幅な効率化を行った。

#### 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・インターネット出願の導入及び入学検定料収納事務のアウトソーシング等の事務の効率化を行い、経費を節減した。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、改善すべき項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに実施していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証を含めた内部統制の体制を実効性のあるものとするよう、早急に整備し、自己点検・評価内容の改善を図る必要がある。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信している。